



健康経営って？

◆社員の健康企業戦略に／社内理解が普及の課題

ブン子さんは北陸経済研究所（富山市）の藤貴伸研究員に聞きました。

Q－健康経営ってなあに。

A－従業員の健康管理を経営課題と捉えて戦略的に取り組む経営手法のことです。

Q－具体的にどんなことをするの。

A－従業員の心身の健康増進のために、健康診断や人間ドックなどの受診に対する補助や食事の指導、運動機会の創出などのほか、ストレスチェックやメンタルヘルス相談窓口の設置などさまざまな取り組みが行われているようです。



県内でも広貫堂が社内ウォーキングイベントを実施したり、富山トヨペットがフットサルやテニスなどの社内クラブ活動を支援したりと、独自の取り組みを進めています。

Q－どんなメリットがあるの。

A－従業員の健康増進に取り組むことは、生産性の向上や病気などによる離職の防止、企業が負担する医療費の軽減につながると考えられます。また、「従業員を大切にする会社」などのイメージが企業の価値向上にもつながるとされています。

さらには財政を圧迫している社会保障費の抑制や、健康寿命の延伸による働き手の確保など、国が抱えている課題の解決にもつながると期待されています。国も積極的に推進しており、経済産業省は2014年度から「健康経営銘柄」を選定、16年度には「健康経営優良法人認定制度」を創設するなど一定以上の取り組みを行っている企業への顕彰制度を設けています。

Q－課題は何かしら。

A－取り組みによって企業業績をどの程度押し上げたかなど、成果を数値化することが難しいため健康経営の必要性について社内で理解を得ることがネックになると考えられます。

また、取り組みを意義のあるものにするためには、健康増進への支援メニューを整備するだけでなく、健康に関心のない従業員も巻き込んだ大きな動きにしていくことが重要になるでしょう。